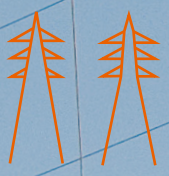


ピラミッド鉄塔 単一テーパー鉄
 塔 鋼管鉄塔 アンクル鉄塔
 等辺山型鋼 番号看板
 鉄塔札V吊り 耐張型
 飛び番 の一鉄塔 嵩上げ
 11吊り 美化鉄柱
 径間 門型鉄塔 新し
 い門 三角配列 垂直配列
 オフセットコックさん
 とんがり帽子
 交差鉄塔 碍子の数 電圧
 分岐鉄塔 上下振り分け型
 トンボ鉄塔 ジャンパ線
 ジャンパ開放 ゴジラ型 アッサー鉄塔
 大口鉄塔 引き下げ鉄塔
 ドラキュラ テラス付きドラキュラ
 配電変電所 大正12年10月



2010.11.27 鉄塔ウォーク
 花総線・亀戸線・小松川線
異常接近地帯
 花総線・亀戸線・小松川線・北小岩変電所



■花総線（はなふさせん）

東京都足立区加平の花畑変電所（154KV）と千葉県船橋市の下総変電所を結ぶ 66KV 送電路。架空送電路は加平の 1 号鉄塔から千葉県市川市の 79 号鉄塔まで。両端とも変電所には地下線を通して繋がる。

鉄塔のデパートと呼びたくなるほど多種多様な鉄塔。意味不明な装柱。渋く、面白く、謎に満ちた送電路だ。

小岩の市街地を通り江戸川へ抜ける部分は、大正 12 年の鉄塔札を持つ、低く古い鉄塔がそのまま残っており、近いうちの建替が予想される。また江戸川を横断する 47 号、48 号は秀逸な古鉄塔。また市川側の 49 号はドラキュラ型の開閉鉄塔で、その異様な姿は一見の価値がある。

歴史的には大正 2（1913）年に、群馬県沼田市の岩室発電所から千葉県市川市を結んだ利根発電の送電線（前橋旧線）がこのルートが発祥と考えられる。利根発電は大正 10（1921）年に東京電燈と合併している。

鉄塔札に残された最古の記述は大正 12 年であり東京電燈と合併した後の鉄塔ということになる。

なお大正 12 年は 23 区内では最も古い年月の鉄塔札と思われ、同じ年月を記述した青井線の 17 号も同じ利根発電の送電ルート上にある。（東京近辺では大師線の大正 7 年が一番古そうだ。使用されていない鉄塔も含めると旧谷村線の大正 2 年が最古か？）

また前述の 49 号開閉塔は利根発電の送電路の終着地点にあり、周囲の変電所も含めそのなごりと考えられる。

■亀戸線

埼玉県吉川市の北葛飾変電所（275KV）から東京都江戸川区の亀戸変電所までを結ぶ 154KV 送電路。小松川線 18 号鉄塔から北葛飾変電所間は小松川線に併架している。

大正 13 年の鉄塔札を持つ、上越幹線原型と思われる鉄塔も数少ないが残っている。また建替られた鉄塔も原型の面影を残し、歴史と美しい鉄塔が売りの路線。

特に八潮市古新田の原型鉄塔群は一見に値する。また蔵前通り沿いに立つ 101 号は都会では珍しく結界に入れる鉄塔だ。

東京電燈が建設した上越幹線がルーツ。上越幹線は信濃川水系の大電力を東京に輸送する目的で建設されたもので、1924（大正 13）年、新潟県津南の中津川発電所から東京亀戸まで送電した。上越国境越えで雪の重みから鉄塔の挫屈が発生するなど、困難を乗り越え完成した路線だ。

■小松川線

埼玉県吉川市の北葛飾変電所（275KV）から、草加の京北変電所（275KV）、千葉県

松戸市の矢切変電所（154KV）を經由して、東京都江戸川区の小松川変電所（154KV）へ至る 154KV 送電路。

昭和 60 年代の鉄塔が多い。古い鉄塔は残っていないが、長く変化あるルートが魅力。中でも松戸市矢切の小松川線は、のどかな風景と変化ある鉄塔群で鉄塔散歩におすすめだ。

群馬本線（群馬幹線）の支線として 1925（大正 15）年に建設された南葛線がルーツ（東京電力）。南葛線は群馬本線の片山開閉所（現・武蔵野変電所）から小松川変電所まで結んだ送電線。後に 154KV 東京外環線の一翼を担う。

「電力戦」と亀戸線・小松川線

亀戸線は「東京電燈」の上越幹線、小松川線は「東京電力」の南葛線がルーツだ。もともとは別の会社の路線だった。

まぎらわしいが「東京電燈」は現在の東京電力の母体となった会社で、一方の「東京電力」（以下「東力」）は名古屋を本拠地とする東邦電力が早川電力・群馬電力などを合併し作った会社。東邦電力の帝都侵攻のための会社といえる。

東京電燈は大正末から昭和初期にかけて、京浜地域に進出してきた電力会社——東力、日本電力、大同電力を迎え撃ち、熾烈な「電力戦」を演じる。そのひとつ、東力と東京電燈との戦いは、『東京電燈株式会社創業五十年史』に次のように描かれている。

東京電力会社は進入軍を二分し、一は群馬本線片山開閉所より分岐して埼玉県草加、千葉県松戸を経て小松川変電所に至り、さらに降圧して大島、深川、月島、本所、寺島方面へ供給を開始し、他は川崎方面より目黒、芝浦方面へ進出した。

東京電燈と東力の電力戦は京浜地域の電力界を大混乱に陥らせ、遂には東京電燈が逆に名古屋（東力の大株主、東邦電力の本拠地）へ進出する泥沼状態に陥る。この解決のために両者は昭和 2 年に合併し、東力との電力戦は終焉する。

現在、小松川線と亀戸線は仲良く手をつないでいるが、かつてここは戦場。

東京電燈の上越幹線（亀戸線）を挑発するように異常接近する南葛線（小松川線）。味わいのある地域だ。